久しぶりの石巻

せっかく福島まで来たので、仙台に泊まり、石巻まで足を伸ばすことにした。震災後3度訪れたが、5年ぶりになる。「仙石東北ライン」快速に乗ったので、1時間で着いた。あまり時間がないので、石巻駅前からタクシーに乗り日和山に向かった。これが「正解」だった。タクシーの年配の運転手が、震災当時のことを話してくれたからだ。

日和山からは石巻の海岸あたりを一望できる。案内には「日和山は、松尾芭蕉、石川啄木、宮沢賢治など多くの文人墨客が訪れた、石巻のシンボルです。目の前には広く太平洋が広がり、牡鹿半島、遠くには蔵王連峰、そして時には相馬地方の山並みまで見ることができます。そして春には桜、ツツジの名所として多くの市民が訪れる憩いの場所でもあります。標高約56mの小高い山は、2011年3月11日の東日本大震災時、数えきれない人が避難した命の山となりました。そして避難してきた人々は、降りしきる雪の中、信じられない光景を目にします。高さ6mを超える大津波が目の前の街並みや車を押し流し、同時に発生した津波火災によって燃え上がる街の景色です。人々は、絶望感とともに家族、友人の無事を祈りながら夜を明かしたのです。」

日和山から下り、門脇小学校跡に行く。ここは震災後に来たことがある。写真のように津波火災で焼けた校舎と車の残骸に衝撃をうけた。現在、小学校はシートで覆われ、近づくことはできない。運転手は校舎を震災遺構として残すべきと語った。運転手の姉さんがこの近くに住んでいて、日和山に登る急な階段を駆け上り、なんとか助かったと話してくれたことも、こころに残った。

駅前の市役所でタクシーを降りた。石巻市役所は閉店した百貨店を再利用したものだ。震災3ヶ月後に訪ねたときは、市役所の中はごった返していた。魚の臭いなど、津波のつめ跡を感じた。市役所は震災対応に追われており、職員も緊張気味に立ち回っていた。今回は朝早いこともあり、閑散としていた。

今回大きく変わっていたのが、市役所に隣接して石巻市立病院が新設されたことだ。海沿いにあった市立病院は、津波で大きな被害をうけた。震災から数ヶ月後に訪ねた時に撮った悲惨な病院の光景が、今でも忘れられない。市立病院は規模を縮小して、2016年9月に駅前で開院した。浸水を警戒したためか、病院受付は2階にあった。

駆け足で石巻の今を確認して、JR石巻線で女川に向かった。

(2018年8月2日)